

結果公表用

令和5年度
自己評価報告書の概要

令和 6年 3月31日

大川学園医療福祉専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像.....	2
基準 2 学校運営.....	3
基準 3 教育活動.....	4
基準 4 学修成果.....	5
基準 5 学生支援.....	6
基準 6 教育環境.....	7
基準 7 学生の募集と受入れ.....	8
基準 8 財務.....	9
基準 9 法令等の遵守.....	10
基準 10 社会貢献・地域貢献.....	11

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和5年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>本校は、校訓『自律・協調・奉仕』のもと、国家資格である柔道整復師、鍼灸師、介護福祉士の養成を通し、患者様や利用者様のニーズに即応でき、必要な知識・技術力は勿論のこと、社会人としての自覚、礼節、思い遣り、奉仕精神、幅広い視野で常に向上を目指す発展的能力を身に付け、国家試験合格、地域における医療・介護に携わる一員として活躍できる人材育成を 教育理念として掲げている。本校は、平成8年開校の大川学園福祉教育専門学校と平成15年開校の大川学園医療専門学校が平成17年に統合し、現在の大川学園医療福祉専門学校となった。埼玉県認可の専修学校であり、厚生労働省認定・指定の介護福祉士、柔道整復師の国家資格の養成施設でもある。近年、超高齢社会に突入し高齢者人口の増加等、医療介護の担い手は益々需要が高まってきている中、残念ながら介護職を目指す若者が伸び悩んでいる現状がある。本校は介護福祉学科の歴史が一番長い、全国的に介護福祉士養成施設の減少が見られる中でも、毎年介護福祉士を輩出しており、今後も優秀な介護人材を世に輩出し続けられるように努める。また、医療分野においても同じく優秀な柔道整復師を輩出し続けられるよう努める。学生が国家資格取得を目指す中で、校訓や理念のもと、幅広い知識・技能とともに、社会人としての自覚、礼節、思い遣り、奉仕精神を身に付け人間的に成長できる人材の育成を目指す。また、国家資格取得後も医療・介護の現場において即戦力となって活躍できる人材の育成に力を注ぎ、校訓「自律・協調・奉仕」のもと、実践的技術のみならず、人としての原点に立ち返り、学園での学びを通して患者様や利用者様の心に寄り添うことのできる医療人や福祉人を育成する。</p>	<p>1. 入学生の確保 募集定員充足に向けて、入試募集委員会を中心に全教職員の協体制下で県内外の高等学校やハローワークの訪問、卒業生が在籍している接骨院等の訪問、留学生対象とした日本語学校の訪問、学校説明及び体験授業等のオープンキャンパス実施、卒業生で組織される芳友会(同窓会)との連携、介護福祉学科留学生及び委託訓練生の受け入れ、HPやブログなどのSNS等での情報発信、大川学園高等学校生への内部進学講座実施等、実効ある方策を実施し募集定員充足を目指す。</p> <p>2. 学生指導 学生が安心安全に学校生活を送れるよう担任はじめ教職員全体で学生と日々のコミュニケーションを図り、中途退学者がでないよう努める。また、学習の遅れや生活面で気になる学生とは適宜個別面談を実施する。学習面では、補習や国試対策を通して定期試験や国家試験に向けた指導に力を入れ、各学科とも国家試験合格率100%を目指す。特に留学生指導では、日本語講師との連携も図り、日本語力向上を目指し日本語検定2級以上を目標とする。</p> <p>3. 職業実践専門課程 令和4年度に認可取得を予定していた柔道整復学科が先送りになった為、令和5年度は不備のないよう申請し認可を取得する。介護福祉学科は認可5年目に伴い、要件を欠くことのないように引き続き適正な運営に努める。また、学校全体として学外施設等とも連携を強化し、職業教育の推進を図る。</p> <p>4. 地域貢献 地域行事・各種大会等へのボランティア参加、校舎・校庭・柔道場の開放等、開かれた学校として地域に貢献する。また、学校周辺の清掃活動にも積極的に取り組む。</p> <p>5. その他 芳愛接骨院運営 柔道整復師臨床実習指導者講習会実施 介護福祉士実習指導者講習会実施</p>	<p>1. 法人広報室がなくなった分、より教職員が一丸となって学生募集活動にあたる。 具体的には、 ①特に近隣高校との関係を深め、オープンキャンパス・テーピング講習会等への参加を促す。 ②ホームページ・教職員ブログ・Instagramにて、学校の様子等を随時発信し、学校PRに努める。 ③ガイダンス等に教員も積極的に協力参加する。</p> <p>2. 学校生活全般のサポートに努める。 ① 担任等による学生の個別面談を実施し学生の充実した学校生活を支え退学留年防止にも努める。 ② 国試対策として講座や補習を実施し合格率向上を図る。ボランティア活動部活動にも参加を促す。 ③ 防災避難訓練、飯能警察署員による交通安全教室を実施する。 ④ 学生アンケートを実施する。 ⑤ 教育支援推進室と連携し、留学生の補修等の指導を行う。</p> <p>3. 介護福祉学科認可に伴う適正運営維持と柔道整復学科の申請を行う。</p> <p>4. まだコロナの影響があるなか、地域行事のボランティア活動への積極的な参加、学校施設の地域開放を行う。</p> <p>5. 芳愛接骨院の安定した運営を行う。各講習会を実施する。</p>	<p>1.入学生の確保 各学科募集定員充足に向け、SNSを含む募集活動の強化。 2.学生指導 国家試験合格率100%を目指す。 中途退学者を無くす。 3.職業実践専門課程 介護福祉学科、柔道整復学科の適正な運営継続に努める。 4.地域貢献 引き続き、飯能市との連携を図り、地元自治会、警察署、諸団体等に協力していく。 5.その他 芳愛接骨院の適正な運営と共に、患者数増に努める。 各講習会等の適正な開催に努める。</p>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>校訓「自律・協調・奉仕」の下、教育理念、三ポリシーに則り教育活動が展開された。各学科の専門的技術・知識に長けた教員による指導で、資格取得後も現場において即戦力となって活躍できる人材の育成に力を注いできた。また、実践的技術のみならず、人としての原点に立ち返り、学園での学びを通し患者様や利用者様の心に寄り添うことのできる 医療人・福祉人の教育を行い、市や警察との連携協定を結び地域に根付いた安心して学べる学校として学生が国家資格を取得する上でもよりよい環境を作り出すよう教職員が一丸となって取り組んできた。また、学生への補習や国家試験対策、卒業・就職サポート等の体制も充実させた。広報活動においては、法人広報室がなくなり学内の専門分野に長けた教職員が学生募集活動に関わった。</p>	<p>【1-1】理念・目的・育成人材像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理念・目的・育成人材像は定められているか 評価④ 2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか 評価③ 3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか 評価④ 4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか 評価③

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念の具現化のため、学校の目的・目標を明確に打ち出し、その実現に向けての運営方針、事業計画が策定されている。運営組織や意思決定も、学校の目的・目標達成のために、規程に基づきより効率的なものとなっている。また、人事体系、賃金体系等に関しても制度化が図られており、適切な運営がなされていると判断される。今後は、人事考課による処遇制度導入の検討を行い、職員の業務遂行に当たっての意識向上を図ることが課題と考える。また、入学定員の確保、教育内容の充実、キャリア教育の推進により所謂「入口と出口」の強化を図り、より多くの地域医療・介護に貢献できる人材輩出に努める。</p>	<p>【2-2】 運営方針 1 理念等に沿った運営方針を定めているか 評価③</p> <p>【2-3】 事業計画 1 理念等を達成するための事業計画を定めているか 評価③</p> <p>【2-4】 運営組織 1 設置法人の組織運営を適切に行っているか 評価④ 2 学校運営のための組織を整備しているか 評価④</p> <p>【2-5】 人事・給与制度 1 人事・給与に関する制度を整備しているか 評価③</p> <p>【2-6】 意思決定システム 1 意思決定システムを整備しているか 評価③</p> <p>【2-7】 情報システム 1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか 評価③</p>

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は柔道整復師・介護福祉士を養成する専門学校であることから、その専門職に必要な技術・技能・知識の習得を教育活動の大きな目標とし、同時に社会に貢献できる即戦力としての人材養成を重要視している。この教育目標達成のために、現場経験豊かな教員を揃え、業界を牽引する先生方や現場で活躍されている先生方を講師として招聘し、業界の人材ニーズを常に把握するよう努めている。</p> <p>修業年限に対応した教育達成レベルは明確にされ、そのカリキュラムは体系的に適正に編成されている。</p> <p>また、学生による授業評価は平成 27 年度より実施されており、その結果は各担当教員に知らされている。各教員は、アンケート結果を踏まえ、より良い授業展開に向け切磋琢磨している。</p> <p>法令遵守に努め各学科とも育成目標に向けて授業を行える教員を確保し、教員には専門性や資質向上のための研修会等への参加を促している。しかし、授業等のため長期の研修は難しく、夏休み期間中も体験入学やセミナーがあり難しいのが現状である。</p> <p>成績評価・単位認定、資格取得については明確に定められており、実施されている。</p>	<p>【3-8】目標の設定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 評価④ 2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか 評価③ <p>【3-9】教育方法・評価等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 評価④ 2 教育課程について外部の意見を反映しているか 評価③ 3 キャリア教育を実施しているか 評価④ 4 授業評価を実施しているか 評価③ <p>【3-10】成績評価・単位認定等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 評価④ 2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 評価③ <p>【3-11】資格・免許の取得の指導体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 評価④ 2 資格・免許取得の指導体制はあるか 評価③ <p>【3-12】教員・教員組織</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資格・要件を備えた教員を確保しているか 評価④ 2 教員の資質向上への取組を行っているか 評価③ 3 教員の組織体制を整備しているか 評価③

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職活動をすることにあまり積極的ではないが、今年度は、柔道整復学科の「就職ガイダンス」、介護福祉学科の「Job Café」と両学科が開催できたことが学生の意識向上へと繋がりとても良かった点である。また、学生個々の成績を国家試験に合格する程度の水準までの学力をつけさせ、国家試験に合格させることが重要である。卒業生に関しては、引っ越し等により連絡が取れず卒業生の現状把握が難しい。それに加え、芳友会懇親会に参加する卒業生が少ないのが現状である。卒業生がそれぞれの業界で活躍しているが、これからも卒業生の動向を芳愛会懇親会等で把握していきたいと考えている。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【4-13】就職率 1 就職率の向上が図られているか 評価⑤</p> <p>【4-14】資格・免許の取得率 1 資格・免許取得率の向上が図られているか 評価⑤</p> <p>【4-15】卒業生の社会的評価 1 卒業生の社会的評価を把握しているか 評価③</p> </div>

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校求人は増え続けてはいるが、学生の就職に対する意識が低く、積極性に欠けている点が毎年の課題となっている。教員と就職担当との連携も体制が整っている為、就職先内定までの就職指導についても充実している。今年度は、柔道整復学科の「就職ガイダンス」と介護福祉学科の「JOB Café」を開催することができた。退学者については、毎年、10人程度出てしまうことは事実である。クラス担任は、普通の学校生活等に対して不安を持っている学生や欠席・遅刻・早退が目立つ学生などに対して面談・アドバイス等を行っている。そして在学生からの相談は勿論、卒業生からの相談も学科教員で対応し内容の共有化を行っている。留学生に対しては、しっかりとした管理を継続し、日々の動きを注意深く見る必要があるとされる。また、入学前に留学生に対し、オープンキャンパス等で、条件面、生活面で困らぬよう、事前に説明するようにしている。受入介護施設対象の説明会を実施し、留学生が残念な結果が起きないように対策している。奨学金を借りていても経済的事情により学費を納めることが困難になってしまう学生も見受けられる。学生の目標を叶えてあげる為、今後も支援方法を一緒に考える必要がある。感染防止対策に関しては、継続して新型コロナウイルス、インフルエンザ等をしっかり行う必要がある。学生への経済的な支援、地方から入学する学生の為の住居に関する相談ができる環境を整えることが必要である。両親が共働きや、一人親の家庭も多くなり、保護者が必要の都度来校するのは困難になってきている。よって、担任が保護者になかなか連絡が取れないことも生じている。学校生活の中で、不安定な学生や成績不良の学生に対しては、担任が保護者と連絡を取り、意思疎通を図っている。卒業生の中には、引越し・結婚等により、すでに本人との連絡が困難になっている卒業生もいる。『芳愛会』を充実することが重要だと考えている。最近の求人は、年齢制限を無くしている施設や接骨院も見受けられるが、社会人経験のある学生の就職へ関する考え方の対応が課題となっている。社会人経験者に対しては、卒業後、介護施設・接骨院等、それぞれで活躍できるよう求人先の開拓が今後も必要である。</p>	<p>【5-16】就職等進路 1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか 評定⑤</p> <p>【5-17】中途退学への対応 1 退学率の低減が図られているか 評定④</p> <p>【5-18】学生相談 1 学生相談に関する体制を整備しているか 評定④ 2 留学生に対する相談体制を整備しているか 評定④</p> <p>【5-19】学生生活 1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 評価⑤ 2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか 評定⑤ 3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか 評定② 4 課外活動に対する支援体制を整備しているか 評定④</p> <p>【5-20】保護者との連携 1 保護者との連携体制を構築しているか 評定④</p> <p>【5-21】卒業生・社会人 1 卒業生への支援体制を整備しているか 評定③ 2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 評定① 3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか 評定⑤</p>

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備は学生の学校生活に支障がないように整備され、かつメンテナンスの体制も生まれ、学生、教職員の施設設備面での安全確保はなされていると評価できる。将来に向けての課題は、資金を含む施設整備の実施である。校舎定礎後 19 年が経過し、設備の老朽化が課題となっている。今後、計画的に整備計画の立案、資金計画を適切に行なう必要がある。介護福祉学科の校外実習、柔道整復学科も学外臨床実習を行っており、卒業後の就職先とのミスマッチをできるだけなくすよう指導している。特に介護福祉施設においては、昨今の人材不足の影響により、積極的に学生の受け入れを申し出る施設も一方で新型コロナウイルス感染症等の感染防止の影響により、受け入れ不可能とする施設も出てきていることあり、安定した実習施設の確保が必要である。今後は、実習が就職に繋がっていけるような就職活動の指導も必要である。近年、介護施設、接骨院等において、インターンシップの受入れに積極的な企業が多くなっている。本校としても、有効的に活用し、企業との連携を強化する必要がある。生徒・教職員の安全確保が第一であり、それを念頭に防災・防火、事故などに対する危機管理が必要である。地震、火災などの防災・防火に関しては防災・防火訓練などにより意識の高揚を図るように取り組んでいる。生徒が授業の関連で事故等にあった場合の保険での対応は問題ないが、自然災害などへの対応の充実が検討課題である。防災対策に関する管理規定、防災行動管理マニュアルなどが完全に整備されていない。また、防災に関する委員会がなく、施設担当に一任している面がある。各種事故発生時の対応マニュアルが完成していない点もある。</p>	<p>【6-22】施設・設備等 1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか 評定④</p> <p>【6-23】学外実習・インターンシップ等 1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか 評定⑤</p> <p>【6-24】防災・安全管理 1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 評定③ 2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか 評定③</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>前年度に引き続き、募集対象者を高校生として募集活動を行った。ただ、18歳人口の減少に加え大学進学の流れが顕著になり、今後さらに専門学校への入学者が減少すると考えられる。社会人の学び直しや留学生対応にも募集の幅を広げていかなければならない。</p> <p>高校生を対象とした募集活動に軸足を置きながらも就職活動で様々な理由で意に添わなかった大学生にも募集の幅を広げる必要がある。</p> <p>また、一旦は就職したが、就業している現状や将来のことを考え、資格取得を考える比較的若い世代もターゲットとなる。さらに、子育てが一段落した世代が資格取得を目指し、「学びなおし」を行う国の施策の一つであるリカレント教育を目指す世代にも入学への門戸を広げる必要があると考える。</p> <p>介護福祉学科においては、ここ数年一定数の留学生が入学している状況を考えると日本語学校との関係構築を含めて募集活動を行っていくべきである。今年度は専門学校全体（柔道整復学科 18 名、介護福祉学科 34 名）の入学生を確保できた。地域を中心とした募集活動をどのように行なっていくかを考えていく必要がある。</p>	<p>【7-25】学生募集活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 評定③ 2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか 評定③ <p>【7-26】入学選考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 評定③ 2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか 評定③ <p>【7-27】学納金</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 評定③ 2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか 評定③

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務基盤として、5年程度の財政状況の把握には努めており、財政状況はある程度健全であると判断している。専門学校介護福祉学科の留学生受入れを開始してからは、入学者の増加に繋がっているものの、ここ数年、募集定員を若干下回っており、今後の人口動態に鑑みても、経営基盤強化に向けた課題は山積しており、決して盤石とは言い難い。</p> <p>予算については、規程に定められており、年度 予算状況についてはまず予算編成方針を決定し、それに基づき予算計画が策定されている。また、中期計画による予算は、計画に沿った適正な予算配分により策定されていると判断している。</p> <p>また、予算の執行は、システムで管理し妥当に執行されている。</p>	<p>【8-28】財務基盤</p> <p>1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 評定④</p> <p>2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか 評定④</p> <p>【8-29】予算・収支計画</p> <p>1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 評定④</p> <p>2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか 評定④</p> <p>【8-30】監査</p> <p>1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか 評定④</p> <p>【8-31】財務情報の公開</p> <p>1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか 評定④</p>

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園の教育理念「自立・協調・奉仕」の精神に則り法令等を遵守し、学園の運営を行うことを目標としている。教職員・学生に対する法令遵守のためのルール作成、啓発活動が継続して必要である。法改正などについては関係教職員に通達を回覧で通知し情報の共有を図っている。学校法人としての社会的責任を全うするため、個人情報保護に関する法律及び関係する法令を遵守し適正に取り扱うよう努めている。今後は関係する規定を整備するとともに、研修等を実施し、教職員はもとより学生の意識向上を図っていきたい。個人情報保護規定の策定が今後も必要である。また、教職員に対しての啓発及び教育を適切に実施する必要がある。学校評価規程を整備し、自己点検・自己評価の体制を確立した。今後、学校関係者評価を経て、改革・改善を図っていく。今後も、評価結果を、学内の運営委員会・職員会議等で話し合い、より良い学校運営が出来るように心掛ける。</p> <p>教職員を各種研修会に参加させ、学校評価の重要性及び要領等について、習熟する必要がある。学校の概要、トピックス等は積極的に情報発信している。「学校評価委員会」・「教育課程編成委員会」等の情報も学園ホームページに公開している。学則等法令に定められた項目及び教員情報について、公開が不十分な点もある。</p>	<p>【9-32】関係法令、設置基準等の遵守</p> <p>1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか 評定⑤</p> <p>【9-33】個人情報保護</p> <p>1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか 評定④</p> <p>【9-34】学校評価</p> <p>1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 評定⑤</p> <p>2 自己評価結果を公表しているか 評定⑤</p> <p>3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 評定⑤</p> <p>4 学校関係者評価結果を公表しているか 評価⑤</p> <p>【9-35】教育情報の公開</p> <p>1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか 評定④</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>社会貢献については「自律・協調・奉仕」という創立者の言葉に代表されるように、学園の創立以来、地域に根ざした学園、そして医療・福祉を学ぶことにより、人々を健康や幸福に導くことを目標に掲げ、学園全体で取り組んでいる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10-36】社会貢献・地域貢献</p> <p>1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 評定④</p> <p>2 国際交流に取り組んでいるか 評定④</p> <p>【10-37】ボランティア活動</p> <p>1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか 評定③</p> </div>